

Digest of Science of Labour

労働の科学

2022
April
Vol. 77, No. 4



民話の里／山本美智代

特集

安全・安心の職場環境の構築を目指して

外国人労働者とともに安全に働くために／田中通洋

安心して働ける職場づくりの取り組みから生まれたテレワーク転勤／田尻忠義

事故事例に学ぶヒューマンエラー：幼児の溺死事故を事例として／井上枝一郎

連載

労研アーカイブを読む⑦⑤

椎名和仁

凡夫の安全衛生記⑥②

福成雄三

大原孫三郎と清水安三⑨

兼田麗子

巻頭言

「1970年大阪万博」の
教訓を生かせ

本田一成

連載

チャレンジ! SDGs⑪

泉 貴嗣

ILOインド・南アジアこぼればなし⑫

川上 剛

労働の科学

2022
April
Vol. 77 No. 4

巻頭言

俯瞰（ふかん）

「1970年大阪万博」の教訓を生かせ

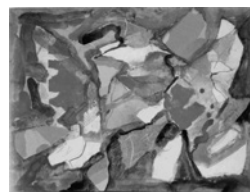
本田 一成 [武庫川女子大学 教授]

1

表紙作品：山本美智代
「民話の里」

ドローイング+コラージュ（37×28cm）

表紙デザイン：大西文子



安全・安心の職場環境の構築を目指して

外国人労働者とともに安全に働くために

..... [労働安全・衛生コンサルタント] 田中 通洋 4

安心して働ける職場づくりの取り組みから生まれたテレワーク転勤

..... [株式会社楓工務店 代表取締役社長] 田尻 忠義 10

事故事例に学ぶヒューマンエラー

幼児の溺死事故を事例として

..... [大原記念労働科学研究所] 井上 枝一郎 15

Graphic

写真でみる労研の歩み (2)

..... 口絵

Series

ILOインド・南アジア こぼればなし (12) インド, ラージャスタンの石材職場とじん肺対策.....	川上 剛	23
「#教師のバトン」で伝わる (11) 教職員の過酷な勤務環境	藤川 伸治	26
芸能従事者の今 (10) 令和3年度の労災調査 ①	森崎 めぐみ	29
チャレンジ!SDGs (11) トップの「ツボ」はどこにある?	泉 貴嗣	36
安三の救済活動 大原孫三郎と清水安三(9)	兼田 麗子	38
漂流者たち クミジョの肖像 (13) 『クミジョ白書2019』(1)	本田 一成	42
労研アーカイブを読む (75) 技術経営 (MOT) による知識創造	椎名 和仁	44
凡夫の安全衛生記 (62) 「さまざまな組織・立場で①」指示されない担当者	福成 雄三	50

Column

演劇が描く「働く人々」 『花咲くチェリー (ロバート・ボルト)』 現実にあらがいがい, さすらい, 夢見た男の物語	編集部	54
BOOKS 『仕事から見た「2020年」 結局, 働き方は変わらなかったのか?』 データによる貴重な「歴史証言」	編集部	56
労働科学のページ		58
次号予定・編集雑記		64



「1970年大阪万博」の教訓を生かせ

本田 一成

「大阪・関西万博」まで3年を切ったこともあり、思い立って大阪府吹田市にある1970年開催の大阪万博（日本万国博覧会）の会場跡地である万博記念公園へ出かけた。「太陽の塔」を360度から眺めたりして大いに楽しんだ後に、「プレイバック1970・大阪万博のあった時代」なるイベントでエキスポ1970を体験した（私は当時5歳で、父親に連れて行ってもらったというのだが、まるで記憶がない）。

そのエキスポ1970は、労働問題の宝庫でもあった。各国や各産業・企業のパビリオンのコンパニオン、エキスポタクシー（電気自動車）、通信オペレーターなど、会場内で所せましと働く若者たちは、入場客に笑顔を見せながら、「詐欺に引つかかった」という実感とたたかっていたのである。その多くは関西地区の女子大生たちであった。

労働者は万博協会が募集している形だが、人集めのための請負会社が介在していた。だから、協会職員と同じユニフォームを着て同じ仕事をしていても賃金が低い。また各国のパビリオンでは、賃金の未払いもあり、抗議すると、「足が太いからクビ」と言われた。あれもクビ、これもクビ。それからセクハラのオンパレード。まるで治外法権だ。多くの涙が流れた。

当初、万博に反対していた（当時反博

（はんぱく）と呼ばれた）ナショナルセンター総評は、直ちに労組結成に動き、大阪総評からオルグが派遣され1970年4月21日、会場内に「エキスポ総合労働組合」が誕生した。労組の委員長には女子大生の高田節子が就任した。総評オルグの中には、佐賀偕子がいた。現在80歳の若々しい「クミジヨ」であり、さっそく佐賀に当時の話を聞いた。

結成時の組合員は100人ほどだったが、労働相談を始めたら噂が噂を呼び、すぐに1,000人を超えた。躊躇している暇はない。団交の嵐で巻き返しに出て不当解雇を撤回させた。スト権を確立して時限スト、48時間ストなどを次々に打った。一時金も要求した。若者たちは俄然活気づいた。学生運動のノリで対決姿勢全開の人がいるかと思うと、みんなにつられて参加する慎重深い人もいた。

しかし、労組の苦勞や焦りが大きいことは容易に想像がつく。一時的雇用の泣き所で、いずれ会期が終われば、逃げられてしまう。その前に地方労働委員会への提訴を繰り返す、山のように積み上げていく。記録を読むと、現在も有名な日本企業がけつこうご無体な加害者だ。そのあつせん案をもとに大半は解決できた。労組の活動を圧縮したりアルな労働者教育であった。最後は労組の解散式を挙行した。高田委員長は、卒業後、産業別組合の書記局へ就職した。



ほんだ かずなり
武庫川女子大学 教授

50年が経過し、この話を知っている人はほとんどいない。だから怖いのだ。歴史は繰り返す。無策ならば、また労働者の涙を見ることになる。ここは労働組合の力を信じたい。例えば、ナショナルセンター連合は、あるいは行動力があると言われる地元連合大阪は腕の見せ所であろう。エキスポ1970の教訓をどのようにエキスポ2025へ活かすのか。ひよつとすると、伝家の宝刀「労働組合による無料の労働者供給事業（労組労供）」（労組が組合員を派遣することで雇用や待遇を保護する仕組み）を抜くのだろうか。

最近、偶然にも義母の友人の中にエキスポ1970の会場で働いていた女性がいることを知った。お祭り騒ぎのような現地で何が起きたのか。労組のことをどう思っていたのか。ぜひ会って話を聞いてみたいと思った次第。